

確認なしにいつの間にか再起動されている

更新プログラムで再起動が発生



図1 更新プログラムによっては再起動が必要なものがある。仕事の合間で、少し目を離れた際に更新されると最悪だ。再起動できる時間帯を指定して防ごう

対策 再起動を禁止する時間帯を設定



図2 ウィンドウズのスタートメニューから「設定」アプリを起動し、「更新とセキュリティ」をクリックする

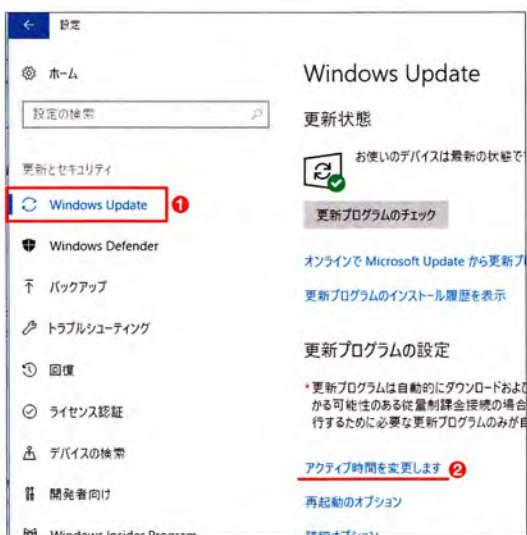


図3 左側の項目で「Windows Update」を選択し(1)、「アクティブ時間を変更します」をクリックする(2)

忙しいときに限って目を離れた際に再起動している。誰もが怒りを覚える瞬間だ(図1)。このような事態を防ぐために、再起動させない時間帯を設定しておく(図2～図4)。また、パソコンの電源を切っていると夜中に自動メンテナンスがされず、起動直後に実行される。仕事の合間に設定しておくとい(図5)。

アクティブ時間

このデバイスを通常いつ使うかを知らせるアクティブ時間を設定します。アクティブ時間中は自動的に再起動せず、使用中かどうかを確認せずに再起動することはありません。

開始時刻

8 00

終了時刻(最大 18 時間)

22 00

1 変更する

2 保存

キャンセル

図4 初期設定は8時から17時まで。もっと遅くまで作業することは多いので、遅めの終了時刻を指定しておくとい(1)(2)。1日のうち最大18時間まで設定可能だ

スキャンやシステム診断の時刻を変更

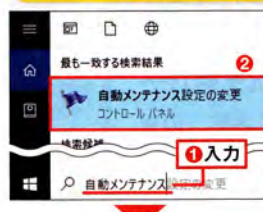


図5 タスクバーの左にある検索窓に「自動メンテナンス」と入力し(1)、設定画面を開く(2)。「メンテナンスタスク…」の時刻をパソコンの電源がオンになっている作業していない時間帯に変更しておく(3)

自動メンテナンス

Windows では、コンピューターを使用していないときに、スケジュールされたメンテナンスにはソフトウェア更新、セキュリティスキャン、システム診断などのタスクが含まれ、コンピューターを使用していない場合に毎日実行されます。予定開始時間にコンピューターが予定よりも遅れている場合は、コンピューターが使用されていない次の予定時に再起動されると閉口する。

自動メンテナンス

メンテナンスタスクの実行時刻(毎日): 2:00 1 変更する

☒ スケジュールされたメンテナンスによるコンピューターのスリープ解除を許可する

更新プログラムによるアップデイトは、ウィンドウズのありがた迷惑な機能の代表格だ。セキュリティ対策や不具合の解消に必要とはいえ、問答無用でパソコンにインストールされ、勝手に再起動されると閉口する。

ウィンドウズ10の標準設定では、8時から17時まで更新プログラムによる再起動はされない。問題は、17時過ぎの残業している時間帯だ。忙しいときに再起動が始まるのを避けるため、時間帯を変えておくとい。

また、基本的に更新プログラムは毎月第2水曜日に配信されるが、重要なアップデイトはその都度提供される。アップデイトを制御するフリーソフトを導入するのも有効だ。夜中にパソコンが起動して更新作業を始めるのは困るなら、電源の設定を変更する。

更新プログラムの問題はそれだけではない。インストールに失敗することが頻繁にあるのだ。その際は、手動でインストールするしかないが、1週間程度たつてから更新するとよいだろう。

1年のうち春と秋にやってくる大型アップデイトは、HDDの空き容量を減らす元凶だ。更新作業後、OSが安定動作しているなら、アップデイト用ファイルは忘れずに削除しよう。

2 更新プログラムのインストールに失敗する

何度も同じ更新プログラムが表示される



図1 更新プログラムのインストールに失敗すると、成功するまで何度も表示され、導入作業を繰り返す。更新時にCPUを使い、仕事の邪魔になる

対策① 手動でインストールする

スタートメニュー ▶ 設定 ▶ 更新とセキュリティ

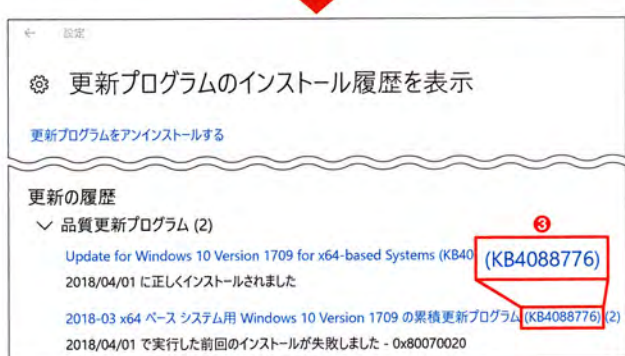
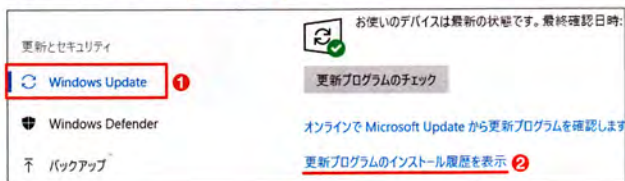


図2 設定アプリの「更新とセキュリティ」の画面で「Windows Update」を選び(1)、「更新プログラムのインストール履歴を表示」をクリック(2)。導入に失敗したプログラムの名前を確認する(3)



図3 ブラウザーで「Microsoft Update カタログ」のページを開き、失敗したプログラム名を検索する(1)(2)

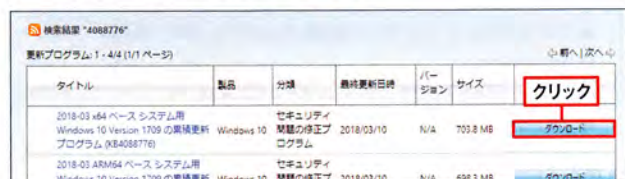


図4 該当する更新プログラムが表示されるので、利用している環境に合わせて「ダウンロード」のボタンを押す

更新プログラムは、正しく導入されるまで何度もインストールを試みる(図1)。同じ失敗を繰り返し、ウンザリすることもしばしば。そんなときは自分で更新プログラムを導入する(図2～図5)。それでもうまく適用できないならインストール自体を送りてしまおう(図6～図8)。

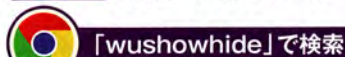


図5 表示されるリンクをクリックして更新プログラムをダウンロードし(1)、ファイルをダブルクリックして実行する(2)



2 ダブルクリックで実行

対策② 特定の更新プログラムを先送りに



ドライバーの更新プログラムが Windows 10 に一時的に再インストールされないようにする方法

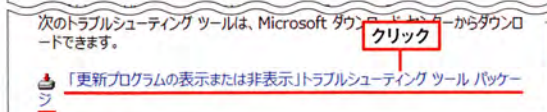


図6 「wushowhide」というキーワードをウェブで検索し、「ドライバーの更新プログラムが…」のページを開く。「更新プログラムの表示…」のリンクをクリックし、ダウンロードしたファイルを実行する

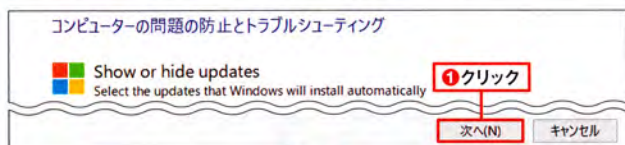


図7 起動後に「次へ」ボタンを押す(1)。「Hide updates」を選択する(2)。先送りした更新プログラムを導入するには「Show hidden updates」を選ぶ

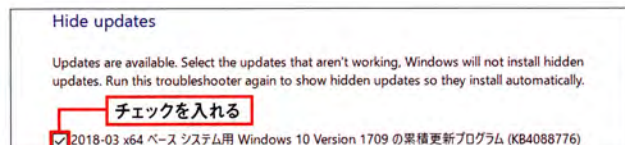


図8 導入に失敗した更新プログラムにチェックを入れ、「次へ」ボタンを押してツールを終了させる。1週間ほど様子を見て図7の「Show hidden updates」を選び、再びインストールを試してみる

3 知らぬ間に勝手に更新される

1 自動アップデートを止められない

通常のアップデート

- セキュリティ更新プログラム
- ベースシステム用更新プログラム
- 悪意のあるソフトウェアの削除ツール



1年に2回の大型アップデート

- 2018年4月スプリングクリエイターズアップデート
- 2017年10月フォールクリエイターズアップデート



勝手にインストールされる...

図1 ウィンドウズ10の更新プログラムは随時配信され、自動的にインストールされる。仕事が忙しいとき更新に時間がかかる大型アップデートが来ると厄介だ

対策 更新できる時間帯を制限する



Windows10設定変更ツール 無料

提供: 西村誠一氏
http://www.asahi-net.or.jp/~tz2s-nsmr/WinUpdateSettings.html

Windows10 設定変更ツール Ver1.5

Windows10 設定変更ツールの機能は下記の通りです

簡単な使い方

ダウンロード クリック



図2 上記URLをブラウザで開き、ZIPファイルをダウンロードする。ファイルを展開し、フォルダー内の「WinUpdateSettings」をダブルクリックして実行する

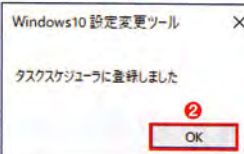
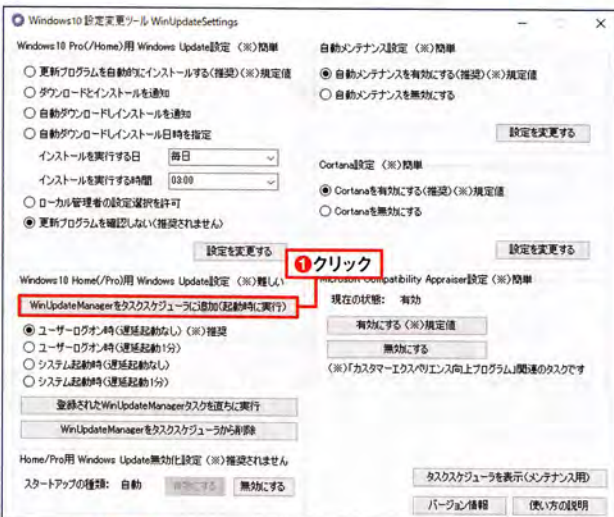


図3 ソフトを起動したら「Windows 10 Home (/Pro) 用 Windows Update 設定」の項目から「WinUpdate Manager」をタスクスケジューラに追加...ボタンをクリックする(1)。タスクスケジューラに登録したら「OK」ボタンを押す(2)

ウィンドウズ10の初期設定では、定期的に更新プログラムを確認し、新しいものがあればインストールしてしまう(図1)。自分のあずかり知らぬところで勝手にアップデートされるのは気が悪い。そこで、アップデートできる時間帯をフリーソフトの「Windows10設定変更ツール」で制限する(図2~図5)。大型アップデートのインストールも防げる。このプログラムは10秒置きにウィンドウズアップデートのプログラムを監視するもの。プログラムの起動後は、タスクマネージャーでちゃんと動いているか確認するとよい(図6)。

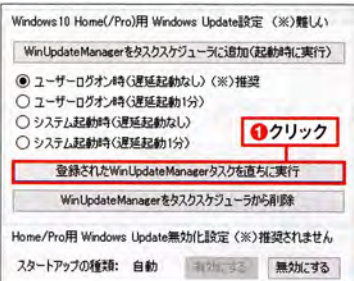


図4 「登録されたWinUpdateManagerタスクを直ちに実行」ボタンをクリックすると(1)、通知領域にアイコンが表示される。これをダブルクリックして実行する(2)

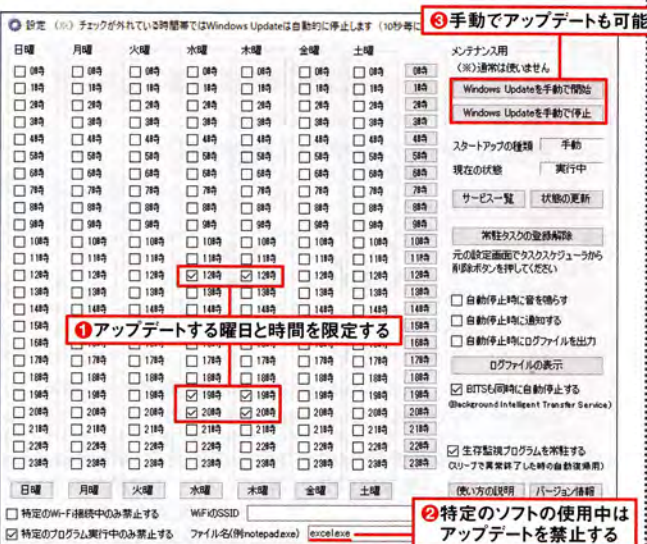
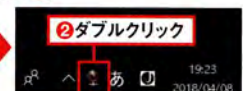


図5 パソコンが起動してアップデートによる負荷がかかってもよい曜日と日時にチェックを入れる(1)。特定のソフトを使っている最中は更新を禁止しておく(2)。手動でアップデートも可能(3)

Ctrl + Shift + Esc を押す

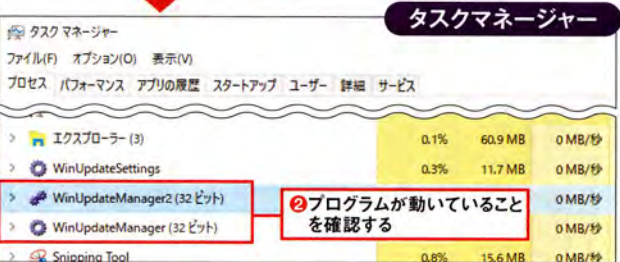


図6 「WinUpdateManagerタスク」が起動すると、10秒おきにアップデートの設定を確認する。タスクマネージャーを起動し(1)、正しくプログラムが動いているかを確認しておこう(2)

5 内蔵HDDの空き容量が減っている

大 型アップデートの導入後は、内蔵HDDの空き容量がギガ単位で減ってしまう(図1)。更新を繰り返すうちに数十ギガのゴミがたまってしまうことも。設定アプリを使い、余計なファイルはこまめに削除しよう(図2~図4)。

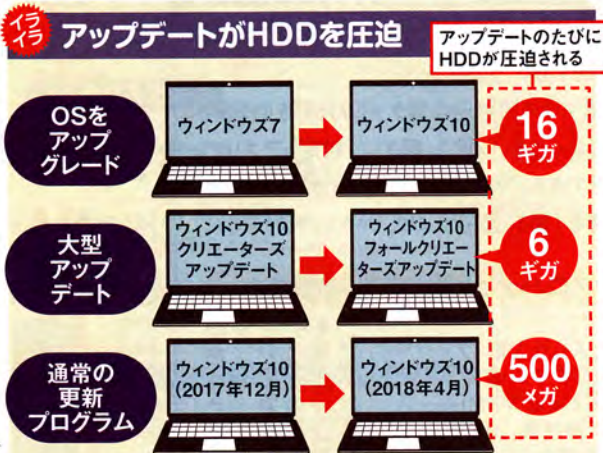


図1 OSのアップグレードや大型アップデート、更新プログラムのファイルがパソコンの内蔵HDDに残ることがある。不要なファイルが徐々に蓄積されて空き容量が圧迫される

対策 設定アプリでゴミを削除

スタートメニュー ▶ 設定

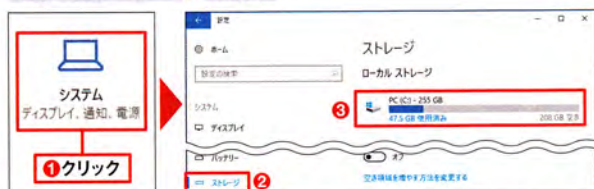


図2 知らないアップデートファイルを削除するには、設定アプリを起動し、「システム」を選ぶ(1)。左側で「ストレージ」を選択し(2)、Cドライブをクリックする(3)

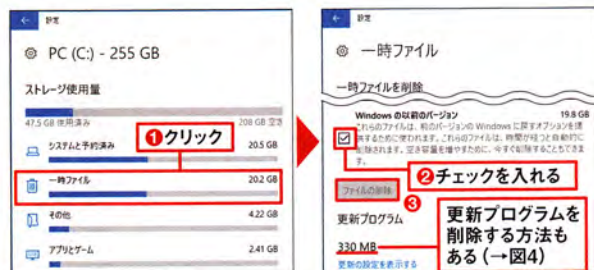


図3 前のバージョンに戻さないなら「一時ファイル」をクリックし(1)、「Windowsの以前のバージョン」の欄にチェックを入れ(2)、「ファイルの削除」ボタンを押す(3)

更新プログラムの残骸が残ることも

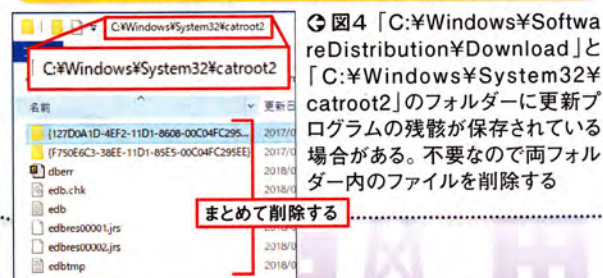


図4 「C:\Windows\System32\catroot2」と「C:\Windows\System32\catroot2」のフォルダーに更新プログラムの残骸が保存されている場合がある。不要なので両フォルダー内のファイルを削除する

まとめて削除する

4 スリープが解除されて勝手に起動する

ウ インドウズの更新が原因でパソコンが夜中に突然動き出すことがある(図1)。これは決して怪奇現象ではない。アップデートのタスクがスリープを解除するからだ。電源の設定を変えると回避できる(図2、図3)。

寝ている最中にパソコンが動き出す



図1 夜中にスリープ状態から復帰し、勝手にアップデートが開始されることがある

対策 設定を変えて復帰を禁止する

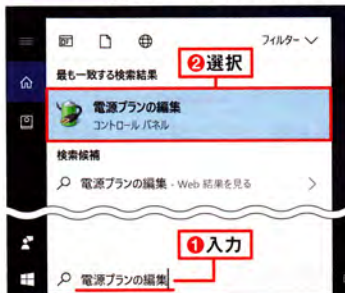


図2 勝手なスリープの解除を止めるには、電源の設定を変更する。タスクバーの検索窓に「電源プランの編集」と入力し(1)、コントロールパネルを起動する(2)

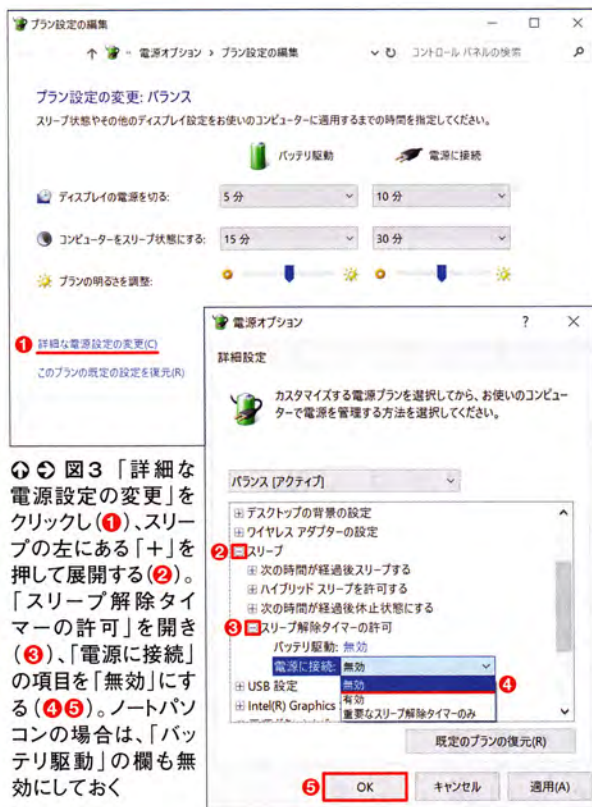


図3 「詳細な電源設定の変更」をクリックし(1)、スリープの左にある「+」を押して展開する(2)。「スリープ解除タイマーの許可」を開き(3)、「電源に接続」の項目を「無効」にする(4)。ノートパソコンの場合は、「バッテリー駆動」の欄も無効にしておく